

運転会社における安全確保のための運転員の新人教育等について

1. 教育の内容等について

運転会社（室蘭環境プラントサービス㈱、以下「MEPS」という。）においては、新規採用者等に対し、社内で教育方針を立てて一定期間教育を実施した後、現場に配属することとしています。

教育の主な内容

共通教育	解体関係教育	液処理関係教育	分析関係教育
1) MEPS 導入教育 ・安全教育 ・情報センター見学	作業手順書教育 セーフー、ハンドル等実習教育 各設備 OJT 教育	作業手順書教育 中制業務 OJT 教育 巡回業務 OJT 教育	共通教育
2) 処理施設内見学 ・受扱、大型T/小型T/コンテナ含む ・液処理設備 ・分析施設・設備 ・中央制御室			
3) 運転教育 ・PCB 処理の流れについて			

2. 教育期間について

教育期間は対象業務によって異なりますが、受扱・解体・分析業務で概ね3ヶ月、液処理中央制御室業務で概ね6ヶ月を見込んで教育計画を立てています。

液処理運転員新人教育実施計画書 / 運転部

教育訓練名	教育訓練内容	対象者名	教育	スケジュール 平成22年度					
			指導担当	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月
新人教育	1) MEPS導入教育 ・安全教育 ・情報センター見学		安全担当 安全担当部長	→					
	2) 運転部教育 ・PCB処理施設・導入教育 ・処理70-及び概要教育 ・処理施設内見学 ・液処理Gr担当者説明		運転部 運転部長、運転副部長	→					
			処理作業長 液処理副作業長	→					
OJT教育	1) 設備別教育 ・拔油、予備洗浄設備 ・洗浄及び加熱設備 ・蒸留及び排気設備 ・液処理設備 ・現場巡回設備 ・搬送、操業管理設備 ・DCS教育		液処理Gr班長 洗浄班 蒸留班及び設備担当運転員 液処理班 巡回班 装置・搬送チーム	各設備の概要や現場機器を確認 各運転員について実作業を見学 現場遵守事項や安全管理についても理解を深める (運転計画に合せて当日の教育内容を決定) ※OJT教育期間は日勤対応とする(期間は習熟度による)					
	2) 他グループの教育 ・受扱班 ・大型Tr/小型Tr班 ・コンテナ班 ・装置搬送チーム		受扱・検査班長 解体副作業長 コンテナ班長 装置・搬送係長	他グループの運転業務を見学 他グループの業務理解及び他班員とのコミュニケーション					
	3) 担当教育(配属後)			配属後のOJT教育					
資格取得	必要に応じて 航行、危険物、特化物など							
	教育ノート提出			▽	▽	▽	▽	▽	▽
				毎日の教育ノートを作成し提出すること:週末→作業長、副作業長、月末→部長、副部長 (班長→作業長→副部長→部長)					
				習熟度評価▽					
				習熟度評価▽					

3. 教育の方法について

- 新規社員は全員に入構時安全教育を実施し、その後、個別教育を実施しています。
この安全教育の中で、本業務は本質的に危険物であるPCBを扱う作業であるため、ルールの順守、安全作業の励行、保護具の適正使用が作業者と処理施設の安全を守る手段であることを徹底的に理解させることとしています。



コンデンサ教育



コンデンサ教育



受け入れ検査教育

② 個別教育にあたっては、各業務毎に教育プログラムを策定し、段階的に教育を実施しますが、各段階で自己評価と教育担当者評価を行い、一定の水準に達しないと次のステップに移行しないこととしています。

特に解体作業を行う者については、セーバーソー、チゼルなどの手作業による解体工具の技能研修を処理棟4階の実習所において個別教育を行っています。



解体作業初期教育実習所



工具の取扱教育 (H21・5・19)



工具の取扱教育 (H23・3・7)

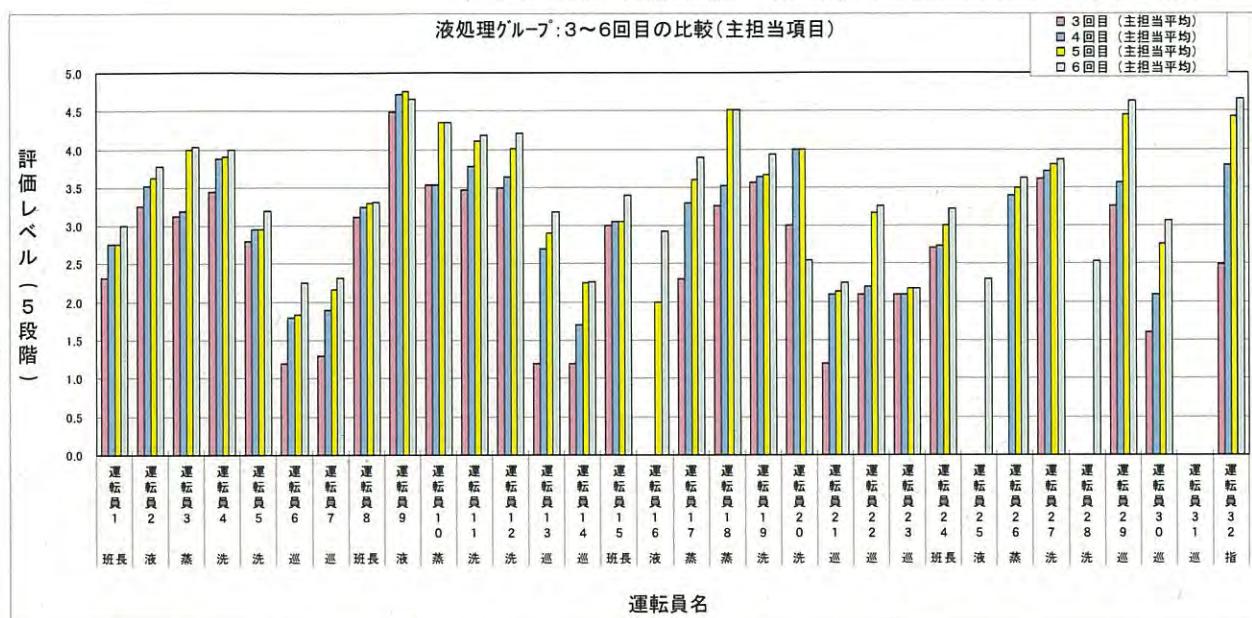


工具の取扱教育 (H23・3・7)

また、分析員については、特殊な作業であるため、採用時にある程度分析の基礎知識、経験を有する分析員を採用していますので、分析機器の維持管理や基本操作と分析の実務について教育を行っています。

③ 全ての教育が終了した時点で、個々人の適正を見極めた上で現場配属となります。液処理中央制御室業務のように、一般市民が見学する場所での研修に際しては、研修生の腕章を着用させ区別しています。

(第6回評価結果報告書(抜粋) : 平成22年11月25日)



5段階評価表

評価点	理解度	座学時の評価	運転実操作時の評価
1	0~20%	理解していない	指導者レベルがないと操作できないレベル
2	20~40%	ある程度理解している(他の人に教えるまでにはいたっていない)	ある程度(50%程度)の指導を受けての運転操作が可能なレベル
3	40~60%	ある程度理解している(他のにも半分程度は教えることが出来る)	単独で機器の操作が可能なレベル(定常時の運転操作対応)
4	60~80%	理解はしている(他の人にも教えることが出来るが一部不足部分がある)	単独で機器の操作が可能なレベル(定常時、非定常時の運転操作対応)
5	80~100%	理解していて他の人にも教えることが出来る	他の人にも指導できるレベル

5. 資格取得の推進

運転会社では、上記の教育の他、業務の遂行に必要な資格取得を推進しており、この取得の過程で、必要な技術の向上を図っています。

MEPS資格取得一覧

資格の種類	設産業廃棄物中間処理施	安全管理	第一種衛生管理士	作業環境測定士	公害防止管理者(大気)	公害防止管理者(水質)	電気主任技術者第3種	電気工事士(1種)	電気工事士(2種)	1級ボイラーテク士	2級ボイラーテク士	1種圧力容器取扱主任者	2種危険物取扱者	甲種危険物取扱者	乙4種危険物取扱者	1種酸欠作業主任者	特定化學物質作業主任者	前石綿含	転職(5年以上)	クレーン特別教育(5t)	以下	講習	フォーライフト運転技能	玉掛け技能者	毒物劇物取扱責任者	はい作業主任者
配置要件	1名以上	1名以上	1名以上	1名以上	1名以上				日勤1名以上	日勤1名	日勤1名以上	波各班1名以上	波各班1名	波各班1名	以上、日勤各班1名以上	液4班で2名以上	全体で2名以上	上交替勤務各班2名以上	分析各班に2名以上	運転全員			受入・払出3名以上	の受全員	トランス解体	
人数	2	3	7	1	6	6	11	1	2	11	13	19	11	13	74	81	97	57	73	45	40	112	5	4		

6. 全社員に対する本事業の啓蒙活動

運転会社では、当事業が国家プロジェクトであることに鑑み、JESCO の基本理念や環境安全方針、運転会社の基本理念や行動指針のほか、現場作業に必要な事項で構成する「安全手帳」を全員に配布し、事業の意義と日常の安全確保の啓蒙活動を行っています。



安全手帳及びその一部

7. 社内コミュニケーションの推進

作業の安全を維持するためには、社員間のコミュニケーションが重要であることから、階層別コミュニケーションを推進し、風通しのよい職場風土の醸成を図っています。また、必要に応じて安全のための全体教育も実施しています。



図面についての勉強会



社内会議



リスクアセスメント検討会



始業前の KY 活動



全体安全集会